

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
 山ビル8階C号室
 電話 (583) 19000番
 F A X (583) 1910番
<http://www.cn-sho.or.jp>
info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

新年ご挨拶



名誉会長 海部俊樹

会員の皆さん、新年明けましておめでとうございます。今年こそは年を迎えることができました。今年こそは会員の皆様方にとっても平和でよき年であることを願っています。

しかし、国内外の情勢はともに厳しく、多難な世相が続いております。そのような中で、昨年はラグビーやフィギュアスケート、ノーベル賞、北陸新幹線開業などの明るい話題があったかと思えます。

さて、私事で恐縮ですが、昨年末に私の著書が上梓されるに至りました。これは、一昨年から中日新聞紙上に連載していただきました「回想録」をまとめたものです。すでにお読みいただいていた方もおられると思います。そこで言い足らなかつたことなども加筆してまとめており、私の生い立ちから政治人生を通じて、昭和平成、正確には戦後の政界を一望できるのではないかと思います。

思い出しますと、桑原幹根会長の後をついで私が中部日本書道会の会長をお引き受

けたのは、今から二十四年前の平成四年だったかと思えます。ちょうどその前年末に私の内閣が総辞職したばかりの時でありました。私が文部大臣を経験しているのと、地元の書家の先生方と懇意にしていたいたいていた関係でお声がかかったものと思えます。その後、平成十二年には、愛知県と江蘇省との友好締結二十年ということで、当時の理事長は樽本樹邨先生でしたが、一緒に南京を訪れる機会がありました。汗を拭きながらではありましたが揮毫交換会を行ったことを覚えています。日中親善、日中友好のかけはしを、書道を通じて行うことができたものと思えます。

この中部日本書道会は、書道の教育に携わる方、芸術活動に取り組まれる方、そして地域の文化芸術を担われる方々が大勢お集まりです。そしてまた、公益社団法人に移行して四年が過ぎたと伺っています。伊藤昌石理事長のもと、新しい執行部体制で運営が行われ、今後も日本の伝統文化である書道を通じて、文化芸術が発展することを願ってやみません。会員の皆さんもどうか書道に精進され、何卒本会のために活躍されますことを願います。

目次

- 1 海部俊樹名誉会長 新年ご挨拶
- 2 安藤滴水名誉副会長 年頭所感
- 3 伊藤昌石理事長 年頭所感
- 4 樽本樹邨名誉副会長 第六十回記念現代書道二十人展にご出品今後の行事予定(二月~四月)
- 5 改組新 第二回日展入賞・入選者第六十六回中日書道展出品規程(抜粋)二〇一五チャリティ愛の募金
- 6 公開講座を終えて
- 7 会員交流ボウリング大会を終えて

年頭所感

中日新聞一月一日号より転載

樽本樹邨名誉副会長揮毫

安藤滴水名誉副会長 年頭所感



継続していく書の活動

公益社団法人 中部日本書道会

副会長 安藤滴水

謹んで新年のお慶びを申し上げます。まず学生部の行事として書きぞめ展をお話すると非常にレベルが高く次世代を担う人材がいっぱいいます。美しい国日本の書は教育の原点とされ、時空を超えて大切に継承されてきました。現状の学校教育では書写の時間は決して多くはありませんが書藝の先生方には協力を得て書教育と人間形成の繋がりとという点を強調して訴えております。一般部においては書の魅力を伝える公開講座、実技指導を中心とする書道教育研修会、著名人への発信をしております。文化の継承者は誰でもなく一緒にやっていたら嬉しい皆さんだと思っております。

中日新聞一月一日号より転載

年頭所感



理事長 伊藤 昌石

皆様明けましておめでとうございます。よい年をお迎えの事と存じます。

昨年は戦後七十年という節目の年でありましたが、安保法案問題、鬼怒川堤防決壊などの自然災害、マイナナンバー導入と色々な事がありました。海外でもスーパーエルニーニョ現象による世界的な暖冬異変。また、イスラム国によるパリ同時襲撃を始めとした各地でのテロ事件、難民問題。グローバリズム（世界は一つの共同体であるとする巨視的な観点から、環境・人口・食糧・エネルギー問題などを解決しようとする立場）等々、揺れ動いた一年でした。

身近な話題では、五月に伊勢志摩サミットの開催、四年後には東京オリンピック、パラリンピックも開催されますが、現在世界中で起きているテロ事件は決して対岸の火事ではありません。何が起きても不思議でない混沌の時代、私達は今、この中で生活してゆける

社会を模索して行かなければなりません。

本会は「組織の充実」を本年の指針とし、応援事業として今年愛知県で開催される、第三十一回国民文化祭と本会各行事とをコラボさせ、中部日本書道会の公益性を一般市民の方々に周知していただきたいと考えております。

また、七十歳以上の方を対象にご長寿をお祝いし、益々のご健勝を祈念して開催されております「壽書展」が第二十五回の記念展となりますが、新しい企画で記念展を盛り上げたいと思っております。

各会員の皆様と共に、本年も中部日本書道会が教育、文化事業を通じて社会に役立つ存在である事をアピールしてまいります。

そして書道活動に尚一層のご精進と、ご健康で幸多からん一年になりますよう、ご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

壽書展を終えて

第二事業部長 佐野 翠 峰

第二十四回壽書展を平成二十七年十一月十七日（火）から二十二日（日）まで名古屋電気文化会館五階 東・西ギャラリーにて開催いたしました。

壽書展は満七十歳以上の本会会員に加え、会員以外の方々からも広く出品を募集しており、名譽会長である海部俊樹先生の作品をはじめ、最高齢で満九十四歳になられる先生からもご出品いただき、今年度も様々な部門にわたり、計百六十八点の作品が展示されました。

会場では、「長年続けておられる大ベテランの先生方の作品はやはり見応えがあり、ドラゴンズの大ベテラン山本投手が今シーズンで引退してしまい残念だったけど、生涯続けることが出来て、年齢に関係なく活躍できる書道って良いものだね。」といった内容の会話を耳にしました。

開催中は天候にも恵まれ、多くの方に足をお運び頂きました。また最終日には、第十九回 書の魅力公開講座も同階イベントホールにて開催され、特に賑わいをみせておりました。

搬入・搬出も含め、ご協力頂いた企画委員の先生方、協賛会員・第二事業部の皆様のご尽力のおかげで滞りなく開催する事が出来ました。こと、心よりお礼申し上げます。

壽書展は今年二十五回を迎えます。記念展として計画しておりますので、より多くのご出品を賜りますようお願い申し上げます。

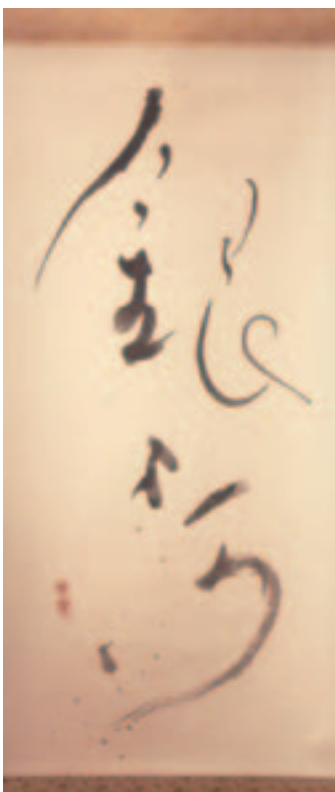


会場風景



寄贈作品

顧問 寺田樹風先生



第19回 公開講座開催

日時 平成27年11月22日(日) 場所 電気文化会館 5階イベントホール

公開講座を終えて

研究部長 廣澤 凌 舟

十一月二十二日(日)、電気文化会館五階イベントホールに於いて「書の魅力 公開講座」が開催され、多くの方々(百四十三名)にご参加いただきました。

十一月二十二日(日)、電気文化会館五階イベントホールに於いて「書の魅力 公開講座」が開催され、多くの方々(百四十三名)にご参加いただきました。

理事長 伊藤昌石先生の開会あいさつの後、第一講座「硯の文化」が始まりました。講師である硯刻家 名倉鳳山先生は、日本人の美意識と精神を表現する「心の器」と

は、私たちにも馴染みの深いものですが、公演の中で名倉先生は「硯で墨を磨くことは、書に向かう前には大切な時間となります。多くの方に硯を磨る楽しさ、気持ち良さを是非味わっていただきたい」とお話しされました。

また、作品数点を会場前方で展示され、近くで拝見する漆黒の硯には、繊細な線と面、光と影が微妙に織りなす美しさを感じることが出来ました。

第二講座は「和洋・淡墨の書」と題し、理事 松下英風先生によるご講演をいただきました。

ご尊父である松下芝堂先生からの指導や技法等を頭の中でイメージを描くこと、筆を持つときにどの指を動かし、指と筆をどのようにして同化させるのか、技法を目でみて真似て習得することの大切さ等、多岐にわたりお話しいただきました。

また、会場には実際に使われている、穂先の長さを調節できる筆なども展示いただき、興味深く拝見することが出来ました。

一方、公開講座と同じフロアの東西ギャラリーでは「壽書展」が開催されており、講座後に鑑賞された方も多くいらつしやいました。

両講座とも解りやすく、大変有意義な公開講座となりました。

最後になりましたが、御多用にもかかわらず、熱心にご講演いただきました名倉鳳山先生、松下英風先生に深く感謝申し上げます。また、会員の皆様には多数のご参加を頂き厚く御礼を申し上げます。

会員交流

ボウリング大会を終えて

厚生部長 小島 瑞 柳

去る十二月十三日(日)午後一時半、星ヶ丘ボウルにて平成二十七年中部日本書道会会員交流ボウリング大会が、伊藤昌石理事長の言葉で始まりました。

樽本樹郎名誉副会長、安藤滴水名誉副会長お二人の始球式で八十七名の参加者が、日頃の忙しさを一時忘れ腕を競い合いました。一時間半に及ぶ熱戦の後、三時より表彰式に続き懇談会が始まり、成績が発表されました。

男性一位、岩崎墨舟先生、女性一位、近藤梅鶯先生に理事長よりトロフィーが手渡されました。

又副会長賞、理事長賞、副理事長賞、企画委員長賞、常任顧問賞が設けられ、くじびきで男女十六名の方が引き当てられました。

この会に御協力頂きました会員の皆様、協賛会員様、ありがとうございました。



第1講座 名倉鳳山先生



第2講座 松下英風先生



開会



名誉副会長お二人の違った一面も……

理事打ち合わせ会

日時 平成二十七年十二月六日(日)
場所 ホテルキャッスルプラザ

本年度の理事打合せが去る十二月六日に開催されました。

理事・監事三十名の出席のもと、伊藤昌石理事長の挨拶に始まり、関根玉振事務局長の進行により第六十六回中日書道展当番審査員(案)についてと公益社団法人中部日本書道会個人情報保護・管理規定(案)についてが熱心に審議されました。



樽本樹邨 名誉副会長

現代書道二十人展にご出品

第六十回記念 現代書道二十人展 (名古屋展)

会期 平成二十八年二月二十七日(土)～三月六日(日)
会場 松坂屋美術館 (松坂屋本店南館七階)

予定

平成二十八年二月十一日(木・祝)
名古屋観光ホテル

第四回理事会 十四時

第一回評議員会(報告会) 十五時三十分

講演会 十六時三十分～十七時四十五分

講師 深田 実氏
中日新聞社取締役論説担当
兼東京本社論説室論説主幹

演題 「イスラムについて(仮)」

祝賀懇談会 十八時

第六十六回 中日書きぞめ展 授賞式

日時 平成二十八年三月二十一日(月・祝) 十四時～
場所 ナディアパーク 三階 デザインホール
(栄・矢場町 松坂屋西)

※理事長賞以上の生徒さんに出席していただきます。

第六十六回 中日展 運営委員会

日時 平成二十八年四月三日(日)
場所 ホテルキャッスルプラザ

改組新第二回日展入賞・入選者

日展特選を受賞して



関根玉振

日展特選を受賞して



吉澤劉石

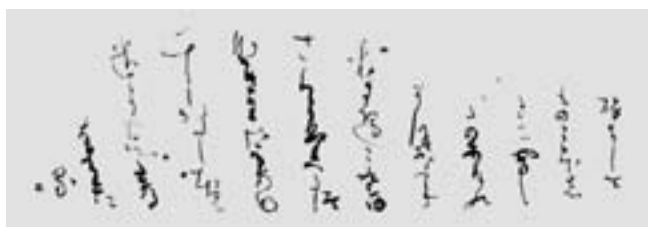
改組新第二回日展において栄ある二回目の特選を受賞したことは、この上ない喜びであります。これも皆さんの暖かいご支援と激励の賜と深く感謝しています。一回目の特選は蘇東坡の書風を基盤とし、今回は北魏の六朝書風の厳しい自然に培われた荒々しさ、その中に垣間見る豊かさを示し、本文三行に落款二行を加え全体を引きしめてみました。

普段の半紙の練習、古典をしつかり書き込んで自分のリズムにとり入れ身につけるといいう事が大変大切なことだと更に実感しました。これからもご支援、ご鞭撻のほどお願いします。



特選 黄庭堅詩

この度の特選を頂けましたことは、審査に当たられました先生は勿論今ままで支えて下さった先生方や諸先輩、友人、家族のおかげと感謝いたしております。私は書作品の制作や鑑賞のポイントを常に【線・墨・形・余白】の美しさに置いていきます。



特選 懐旅

今回の作品も古筆『関戸本古今集』をベースにし、変化と調和を考え、現代の巨匠・日比野五鳳先生の呼吸を取り入れ、ゆったりとした中に、鋭さ、強さ、優しさ、遠近感や立体感など様々な要素を加味してみようと思いました。また、ここ数年は臨書の合間に作品を書くという方向に切り替えました。従って、作品そのものの枚数は増えていませんが結果が作品に表れたように思います。この度の受賞に恥じないよう今後もさらに精進するつもりです。

〔特選〕 関根玉振 吉澤劉石

〔入選〕 岩田緑汀 家田馨子 野村清涼 後藤啓太 井谷李春 犬飼梅川 小笠原青華 甲谷富美子 佐藤慶雲 堀部保子 武田晶庭 馬場紀行 磯貝弘子 伊藤恵扇 小島瑞柳 佐々木宏潤 関根玉翠 阿知和恵華 水野佑華 衣川彰人 田口勢望 伊藤昌郷 伊藤昌園 伊藤昌望 須田静波 川合玄鳳 草野慧泉 高崎鳴琴 梶山盛涛 高桑盛風 山際雲峰 横井宏軒 白石景軒 磯谷明加

内都聖園 林大樹 片岡春秋 後藤洋華 水谷敏子 古川昇史 伊藤龍仙 松英風 伊藤華淵 加藤秀慧 阿部光泉 神谷緑泉 丹羽春蘭 村瀬俊彦 下村柳風 鈴木美庭 深谷恵庭 福岡林泉 香月里泉 横山夕葉 鳥居竹泉 波切童州 大池青岑 稻垣華扇 鈴木立斎 津田秋月 片山清月 久原佳洲 佐藤琉華 戸田青楓 新美秋鳳 上小倉積山 高木紅翠 勅使河原恵 寺尾桑林 野田虹園 木保紫香 寺本陽春 原賀瑞芳

上田賦草 田中青穂 原田南鳳 岐阜県 武山昂石 多和田墨濤 小川龍淵 荒川恵風 鈴史鳳 酒向虹風 松野良園 杉山瓊川 谷方燕風 井口方風 伊藤方風 加藤方風 高橋方風 永井方風 山本方風 世古方風 津田方風 倉田方風 佐久方風 中村方風 大村方風 久嶋方風 菱田方風 菅生方風 小高方風 阿部方風 山梨県 堀内方風 京都府 神保方風

〔○印は初入選〕 ※日展発表名簿順 そのままで記載

第六十六回 中日書道展 出品規程 (抜粋)

一、会期・会場

▼名古屋市ギャラリー栄 平成二十八年六月 七日(火)～六月 十二日(日)

▼電気文化会館

平成二十八年六月 七日(火)～六月 十二日(日)

▼愛知県芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー

平成二十八年六月 八日(水)～六月 十二日(日)

▼名古屋市博物館

一科展覧会——平成二十八年六月 十四日(火)～六月 十九日(日)
二科展覧会——平成二十八年六月二十一日(火)～六月二十六日(日)

一、出品部門

第一部 漢字 第二部 かな 第三部 近代詩文
第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

一、出品資格

十五歳以上(平成十三年四月一日生以前)の者とする。(但し十五歳から二十一歳までの者(平成六年四月二日生から平成十三年四月一日生まで)は証明書[免許証、学生証、保険証等のコピー]を提出する。)

一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。
(止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること)

一、審査日程

二科作品 平成二十八年五月 七日(土) 午前九時十分より
一科作品 平成二十八年五月 八日(日) 午前九時十分より
特別賞選考 平成二十八年五月 九日(月) 午前九時十分より

一、審査員

特別賞選考委員は、依嘱・無鑑査作品の審査にあたる。
一科審査員は、一科作品の審査にあたる。
二科審査員は、二科作品の審査にあたる。

一、褒賞

優秀作品に左記の賞を贈る。(二科佳作、一科秀逸の点数は第五十八回展から適用する)
二科作品——二科賞(二点)・奨励賞(二点)・佳作(〇・五点)
一科作品——推薦(二点)・特選(二点)・準特選(二点)・秀逸(〇・五点)
無鑑査作品——中日賞・桜花賞
依嘱作品——海部俊樹賞・大賞・準大賞

一、昇格規定

各資格において次の基準を満たすとき昇格する。
一科 昇格——二科において総点三点に達した者
無鑑査昇格——一科において総点五点に達した者

依嘱 昇格——無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者
二科審査員昇格——依嘱において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者

一、授賞式

平成二十八年六月十二日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後三時半より(予定)
祝賀会 平成二十八年六月十二日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後六時より

一、入場料

三〇〇円(小・中・高校生は無料)、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱い店がいたしますので、出品者は事前に取扱い店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。
締切りは四月十一日(月)までとさせていただきます。
中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱い店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。

※正会員(展覧会役員及び一科会員)の年会費も、取扱い店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他の注意事項

出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがありましたら赤字で訂正して下さい。
紛失した場合は、(公社)中部日本書道会本部へご請求下さい。
搬入・搬出については、取扱い店に連絡を取ってください。所定の搬出時間を過ぎても搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。
※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度ご出品の方は、本部から送付したものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前にご指導もしくは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送りします。(申請最終締切三月三十一日)

※新規出品の十五歳から二十一歳(平成六年四月二日生から平成十三年四月一日生まで)の方は、証明書[免許証、学生証、保険証等のコピー]を添付して下さい。

出品料・協賛費は理由の如何を問わず返却いたしません。
※本年度不出品者(正会員)の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入していただきます。

※授賞式祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

第六十六回中日書道展作品展示会場

愛知県美術館ギャラリー 8F

六月八日(水)～六月十二日(日)

審査顧問	一科審査員	一部・二部・三部	一部・二部・三部・四部・五部
特別出品	二科審査員	四部・五部	海部俊樹賞・大賞・準大賞
依嘱	嘱	一部・五部	中日賞(無鑑査)を含む

名古屋市民ギャラリー栄	一部 作品	六月七日(火)～六月十二日(日)	桜花賞を含む
-------------	-------	------------------	--------

電気文化会館 5F 東・西ギャラリー	一部 作品	六月七日(火)～六月十二日(日)	桜花賞を含む
--------------------	-------	------------------	--------

無鑑査	二部・五部	桜花賞を含む	
-----	-------	--------	--

名古屋市博物館	一部 作品	六月十四日(火)～六月十九日(日)	
---------	-------	-------------------	--

二科	一部・五部	六月二十一日(火)～六月二十六日(日)	
----	-------	---------------------	--

一科全作品を六月 十四日～ 十九日まで陳列し、掛替えは行わない。
 二科全作品を六月二十一日～二十六日まで陳列し、掛替えは行わない。
 *期日に遅れた作品、書類搬入のない作品は受け付けない。

審査顧問から無鑑査までの出品について

一、作品寸法

資格	種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	協賛費	年会費
審査顧問	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)		
特別出品	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)		
一科審査員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)		
二科審査員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)		
依嘱	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	七、〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)		
無鑑査	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	七、〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)		

・審査顧問から無鑑査の作品寸法は右記の通りとする。
 ・依嘱・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。(第一部・第二部・第三部・第四部とも共通)

・一審・二審・依嘱・無鑑査の作品で、帖・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三三五m×横四m以内。但し、帖は見開き横〇・七m以内。

・篆刻は二印以内で印影のみとし枠張りアクリル入り共に可とする。仕上がり寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。

・刻字は一m平方以内とする。
 ・無鑑査の作品はアクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し、五部は除く)

・依嘱以上の作品はアクリル入りとする。(第一部～第五部)
 ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半折額を認めない。

一科出品について

一、作品寸法

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料	年会費
C	一・七六m(五・八尺)×〇・八五m(二・八尺)枠(縦横自由)	九、〇〇〇円	七、〇〇〇円
D	一・八二m(六 尺)×〇・七九m(二・六尺)枠(縦横自由)		
E	一・八二m(六 尺)×〇・六六m(二 尺)枠(縦横自由)		
F	一・〇六m(三・五尺)×一・三六m(四・五尺)枠(縦横自由)		
G	二・四二m(八 尺)×〇・六六m(二 尺)枠(縦横自由)		
H	一・二二m(四 尺)×一・二二m(四 尺)枠(縦横自由)		
I	〇・七五m(二・四尺)×一・五二m(五 尺)枠(縦横自由)		
J	〇・九一m(三 尺)×一・二二m(四 尺)枠(縦横自由)		
帖・卷子	(寸法は欄外記載のとおり)		

※種別記号が変わりましたのでご確認下さい。
 ・十五歳から二十一歳(平成六年四月二日生から平成十三年四月一日生まで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子は別に定める 十八歳以上は要年会費)

・作品寸法は右記の通りとする。
 ・本年度もG(二・四二m(八尺)×〇・六六m(二尺))は縦横自由とする。

・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。
 ・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)

・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・卷子及び帖(第一部～第三部)は、縦〇・三三五m×横四m以内。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとし枠張り・アクリル入り共に可とする。(但し、審査終了後となります。)

・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。
 ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

二科出品について

一、作品寸法

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料
A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)枠(縦横自由)	七、〇〇〇円
B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺)枠	
帖・卷子	(寸法は欄外記載のとおり)	

・十五歳から二十一歳(平成六年四月二日生から平成十三年四月一日生まで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子は別に定める。)

・作品寸法は右記の通りとする。
 ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。

・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)
 ・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・卷子及び帖(第一部～第三部)は、縦〇・三三五m×横四m以内。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとし枠張り・アクリル入り共に可とする。(但し、審査終了後となります。)

・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。
 ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半折額を認めない。

・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)
 ・重量は四キログラムを超えないこと。

第六十六回 中日書道展出品について(取扱い店の皆様へ)

●書類搬入

・所定の出品票を四月十五日(金)に中部日本書道会本部へ書類搬入してください。(一科会員・展覧会役員の方については、出品料と共に年会費および協賛費を振込して下さい。)

・新規出品の十五歳から二十一歳(平成六年四月二日生から平成十三年四月一日生まで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。・新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。・書類搬入がされていない作品は受付けません。

●作品の搬入・搬出について

・個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱い店に委託してください。・依頼・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品(五月六日(金)午前九時半~午前十一時)愛知県産業労働センター八階展示場に搬入。

●展覧会の搬入・搬出について

Table with columns for location (e.g., 名古屋市民ギャラリー栄), date, and time. Includes entries for 電気文化会館東・西ギャラリー and 愛知県美術館ギャラリー.

名古屋博物館ギャラリー

Table with columns for category (一科作品, 二科作品), date, and time for the Nagoya Museum Gallery.

●作品寸法(仕上り寸法)について

・二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、それ以外は受け付けません。・審査顧問、一科審査員、二科審査員、依頼はアクリル入り、無鑑査はアクリルなしの枠張りいたします。

〔作品取扱店〕

Table listing various art handling stores (e.g., 浅井梧竹堂, 石黒五雲堂, 伊藤大林堂) with their addresses and phone numbers.

第六十六回 中日書道展 日程表

四月十一日	月	書類(取扱店へ)	
十五日	金	書類搬入(業者) 本部へ	受付 午前十時～十一時半 作業 午後三時まで
愛知県産業労働センター 八F展示場			
五月 六日	金	依頼・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入	午前九時～午前十一時
七日	土	二科・鑑査	
八日	日	一科・鑑査	午前九時～午後五時
九日	月	特別賞選考(依頼・無鑑査) 裏打ち作品搬出	午前九時～午後三時 午後四時～午後六時
名古屋市民ギャラリー栄			
六月 六日	月	無鑑査(一部 桜花賞を含む)	搬入 午後一時～午後五時 陳列
七日	火	展覧会役員作品展示 第一日	午前九時半～午後六時
八日	水	〃 第二日	午前九時半～午後六時
九日	木	〃 第三日	午前九時半～午後六時
十日	金	〃 第四日	午前九時半～午後六時
十一日	土	〃 第五日	午前九時半～午後六時
十二日	日	〃 第六日	搬出 午後四時～午後六時
電気文化会館 東・西ギャラリー			
六月 六日	月	無鑑査(二部・三部・四部・五部 桜花賞を含む)	搬入 午後一時～午後五時 陳列
七日	火	展覧会役員作品展示 第一日	午前九時半～午後六時
八日	水	〃 第二日	午前九時半～午後六時
九日	木	〃 第三日	午前九時半～午後六時
十日	金	〃 第四日	午前九時半～午後六時
十一日	土	〃 第五日	午前九時半～午後六時
十二日	日	〃 第六日	搬出 午後三時～午後五時

愛知県美術館ギャラリー			
六月 七日	火	審査顧問・特別出品・一科審査会員・二科審査会員・依頼(一部・二部・三部・四部・五部・海部俊樹賞・大賞・準大賞・中日賞(無鑑査)を含む)	搬入 午後一時～午後六時 陳列 午前十時～午後六時 (企画委員主任は午前十時～予定)
八日	水	展覧会役員作品展示	午前十時～午後六時
九日	木	〃	午前十時～午後六時
十日	金	〃	午前十時～午後八時
十一日	土	〃	午前十時～午後六時
十二日	日	〃	搬出 午後四時～午後六時
名古屋博物館			
六月 十三日	月	一科搬入・陳列	搬入 午後二時～午後五時 陳列
十四日	火	一科展覧会	午前九時半～午後五時
十五日	水	〃	午前九時半～午後五時
十六日	木	〃	午前九時半～午後五時
十七日	金	〃	午前九時半～午後五時
十八日	土	〃	午前九時半～午後五時
十九日	日	〃	午前九時半～午後五時
二十日	月	一科搬出・二科搬入	一科搬出 午前九時半～正午 二科搬入
二十一日	火	二科陳列	二科陳列 午後二時～午後五時
二十二日	水	二科展覧会	午前九時半～午後五時
二十三日	木	〃	午前九時半～午後五時
二十四日	金	〃	午前九時半～午後五時
二十五日	土	〃	午前九時半～午後五時
二十六日	日	〃	搬出 午後三時～午後五時

※授賞式・祝賀会 六月十二日(日) ウェスティンナゴヤキャスル

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものであります。(左記参照)

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。

ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

○書道教室推薦証等交付申請書一通

(申請書は本部へご請求下さい)

○推薦証(別記)

○推薦看板(写真)

○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。

○申込資格

本会正会員及び選考会で認められた準会員

○推薦手数料 二五、〇〇〇円

(承認後ご連絡いたしますので振替用紙にてお振込み下さい。)

担当 教育部

推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会

第 号

公益社団法人 中部日本書道会推薦教室

指導者

第 号

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

平成 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名 (姓名) (電話番号 - -)

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名			
教室住所	〒		
ふりがな			
指導者名 (申請者名)	中日書道展 資格	資	格
備考			

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 平成 年 月 日
交付年月日 平成 年 月 日
交付番号

国外旅行研修補助制度のご案内

本会では、会員(準会員・正会員)が、視野を広め、見識を高め、教養の向上をはかることを目的に外国旅行をする場合、その費用の一部を補助する制度があります。

①補助の対象者

会員期間が満十年以上の者とする。

②補助金額

旅行先及び旅行日程にかかわらず二万円とする。

③補助回数

会員期間中一回とする。

④申請等の手続き

申請

補助を受けようとする場合は、外国研修旅行補助申請書を提出する。

・申込期日

原則として旅行予定日の一ヶ月前までに提出する。

・旅行の変更

旅行の予定変更又は中止の場合は、直ちに外国研修旅行変更(中止)届を提出する。

・添付書類

旅行費用を払い込んだ会員は、申請書に受領書(旅行先・日程等明記)又はその写しを添付する。

・補助金の交付

申請書を審査し、適格者に対して銀行振込により交付する。

・事後報告

旅行を終了した会員は、速やかに外国研修旅行終了報告書を提出する。

⑤補助金の返還

補助金を交付した後に、旅行中止の場合は、補助金は変換させるものとする。

会員の皆様は、この補助制度を大いに利用して下さい。

担当 総務部

※このページに関する質問等は本部事務局迄連絡下さい。

会員の皆様の温かいお心に感謝いたします。

2015年 ーしあわせ薄い人々に愛の手をー チャリティー愛の募金

中日新聞社会事業団に200万
東海テレビ福祉文化事業団に100万 寄託
各支部より諸所に10万
(各支部は独自の方法でいろいろなところに寄託しています)

募金参加者ご芳名

- | | | | | | | | |
|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| 樽本 樹邨 | 近藤 浩平 | 鬼頭 翔雲 | 佐々木 嵩邦 | 近藤 素光 | 渡邊 笙鶴 | 青山 瑞香 | 伊貝 雪邨 |
| 安藤 滴水 | 佐藤 慶雲 | 黒田 玄夏 | 高橋 桃子 | 赤堀 正風 | 生田 浪華 | 伊藤 美泉 | 伊藤 美泉 |
| 伊藤 昌石 | 武内 峰敏 | 黒野 清宇 | 佐野 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 松永 清石 | 富田 栄栄 | 後藤 秀園 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 関根 玉振 | 中野 玉英 | 後藤 秀園 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 天野 白雲 | 波切 童州 | 津田 秋月 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 伊藤 仙游 | 原田 凍谷 | 坪井 景照 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 上田 賦草 | 平松 采桂 | 寺田 樹風 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 大池 青岑 | 水谷 海越 | 中村 秀峰 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 大島 緑水 | 村瀬 俊彦 | 長谷部 青徑 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 岡野 楠亭 | 山内 江鶴 | 早川 泰山 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 梶山 夏舟 | 山際 雲峰 | 藤井 養堂 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 加藤 矢舟 | 山本 雅月 | 堀場 凶南 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 加藤 裕 | 横井 宏軒 | 森 華穂 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 川崎 尚麗 | 伊藤 曉嶺 | 村田 華穂 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |
| 工藤 俊朴 | 柘 英峰 | 横山 清暉 | 高橋 秀箭 | 赤田 正風 | 井口 方燕 | 伊藤 文恵 | 伊藤 文恵 |

中部日本書道会が
4500人の200万円寄託

中部日本書道会(名古屋)の伊藤昌石理事長(写真①)は十四日、名古屋市中区の中日新聞社会事業団を訪れ「年末助け合い運動」と二百万円を寄託した。



中日新聞 2015.12.15(火)

- 千五百人から寄せられた「愛の募金」。
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 青山 華塘 | 青木 芳翠 | 青木 美雲 | 青木 渚香 | 相崎 紫憬 | 相川 千涯 | 渡辺 石鼓 | 渡辺 暁鶴 | 築瀬 舟香 | 古川 玉翠 | 夫馬 千石 | 藤本 鷗舟 | 稗田 美苑 | 服部 祥石 | 服部 松香 | 永田 華園 | 中川 京童 | 内藤 大旺 | 戸谷 喜泉 | 高須 大河 | 高木 曾水 | 鈴木 梅園 | 杉江 秀城 | 柴田 秋水 | 佐藤 東海 | 佐々 清香 | 小林 静葩 | 久米 義山 | 久原 佳子 | 亀井 幡川 | 加藤 松翠 | 片岡 秋華 | 位田 芙千 | 安藤 鵜舟 | 渡邊 笙鶴 | |
| 猪飼 閑雲 | 家田 馨子 | 飯沼 天光 | 飯田 琴舟 | 飯田 瑤華 | 安藤 太起 | 安藤 蘇道 | 安藤 清香 | 安藤 清月 | 安藤 朝鶴 | 安藤 溪泉 | 栗田 佳舟 | 荒木 素園 | 荒木 敬子 | 荒川 祥鶯 | 天見 芳泉 | 天野 梢華 | 天野 月清 | 天野 月祥 | 安部 欽子 | 阿部 卓城 | 阿部 舟花 | 安達 柏亭 | 朝比奈 祥鳳 | 浅野 芳柳 | 朝倉 桃香 | 朝岡 伸 | 浅井 明奈 | 浅井 禎香 | 浅井 紫泉 | 浅井 紅鶴 | 浅井 徑桜 | 秋田 桃泉 | 赤堀 正風 | 青山 瑞香 | |
| 伊藤 和代 | 伊藤 綾華 | 市橋 蒼流 | 市野 香嶺 | 市川 嶺華 | 市川 清陽 | 磯貝 恵一 | 磯谷 弘子 | 石本 正治 | 石原 聲風 | 石原 清至 | 石原 松扇 | 石原 春香 | 石原 聚芳 | 石塚 美根子 | 石田 三喜 | 石田 信子 | 石田 雙碩 | 石田 松濤 | 石澤 玉翠 | 石黒 柏葉 | 石川 瑞峰 | 石川 瑞祥 | 石川 玄風 | 石川 玄風 | 石川 玄風 | 石上 桃李 | 石井 瑞鶴 | 石井 小湖 | 伊佐 次雪華 | 伊佐 佐祥雲 | 池田 成子 | 井口 方燕 | 生田 浪華 | 伊貝 雪邨 | |
| 伊藤 白蒲 | 伊藤 静春 | 伊藤 清逵 | 伊藤 静雅 | 伊藤 翠芳 | 伊藤 翠香 | 伊藤 真葉 | 伊藤 新游 | 伊藤 昌園 | 伊藤 春瑤 | 伊藤 紅樹 | 伊藤 紅玉 | 伊藤 玄園 | 伊藤 惠鳳 | 伊藤 桂琴 | 伊藤 錦汀 | 伊藤 吟雪 | 伊藤 玉峰 | 伊藤 恭子 | 伊藤 杏華 | 伊藤 瑞峰 | 伊藤 瑞祥 | 伊藤 玄風 | 伊藤 玄風 | 伊藤 玄風 | 伊藤 桃李 | 伊藤 瑞鶴 | 伊藤 小湖 | 伊藤 次雪華 | 伊藤 佐祥雲 | 伊藤 成子 | 伊藤 方燕 | 伊藤 浪華 | 伊藤 雪邨 | | |
| 伊吹 代美 | 井深 春扇 | 猪又 松峰 | 井上 翠 | 井上 春嶺 | 井上 紫水 | 犬塚 玉陽 | 犬飼 游華 | 犬飼 梅川 | 犬飼 春灯 | 稻垣 雅彦 | 稻垣 竹徑 | 伊藤 京子 | 伊藤 美峰 | 伊藤 玲香 | 伊藤 龍仙 | 伊藤 芳香 | 伊藤 芳華 | 伊藤 文恵 | 伊藤 美泉 | 伊藤 瑞峰 | 伊藤 瑞祥 | 伊藤 玄風 | 伊藤 玄風 | 伊藤 玄風 | 伊藤 桃李 | 伊藤 瑞鶴 | 伊藤 小湖 | 伊藤 次雪華 | 伊藤 佐祥雲 | 伊藤 成子 | 伊藤 方燕 | 伊藤 浪華 | 伊藤 雪邨 | | |
| 宇佐美 匠香 | 鶴飼 能勢 | 上田 青香 | 上田 青香 | 上田 青香 | 上田 青香 | 植田 秀穂 | 植田 錦舟 | 岩本 祥龍 | 岩永 大抱 | 岩田 展穂 | 岩田 潤流 | 岩田 紫雲 | 岩田 澄秋 | 岩田 史萌 | 岩井 榮華 | 入谷 霞流 | 井村 耕心 | 今田 紅溪 | 今井 桃丘 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 | 今井 芝香 |

〈一宮支部〉

街角511

○年末助け合い10万円 中部日本書道会 一宮支部の岩田潤流支会が「愛の募金」10万円を寄託した。

部長ら2人が24日、一宮市の中日新聞一宮総局を訪れ、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動」に、会員からの「愛の募金」10万円を寄託した。

中日新聞 尾張版 2015.12.25(金)

〔半田支部〕

平成二十七年十二月二十一日(月)

中日新聞社半田支局へ支部長の山内江鶴氏と支部次長の平松采桂氏、事務局長の北川爽風氏が伺い、支局長の小藏裕氏に十万円を寄託

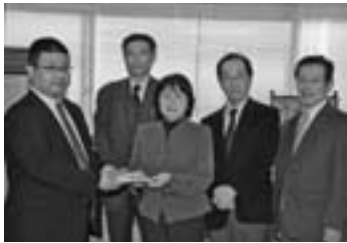


大木青嵐	大川澄泉	大上憧花	塩谷秀蘭	遠藤紫聖	遠藤紫香	江馬翠峰	海老沢晃舟	榎本康代	榎本照乃	江口大濤	江口蒼華	江口清翠	浦山妙琴	梅村悠徑	梅村鉄明	梅村篤谷	宇野光峰	内本久園	内田翠聲	白田香風	牛田美泉														
岡崎鷗風	大森香鶴	大原朱桃	大橋幽徑	大野樹抱	大塚窓月	大谷万里	大竹玄友	太田龍峰	太田葉子	太田游山	太田由香	太田朴仙	太田邦泉	太田青華	太田浄泉	太田紫翠	太田佳香	太田偕風	大曾根弘風	大鹿珠翠	大崎水愁														
小澤佳路	長村子鴻	尾崎澄光	尾崎紫光	小倉梨雪	奥村碧洋	奥村三葉	奥田蘭庭	奥田千萩	萩原春蓬	小川秀水	小川琴風	小川岳南	岡本桃香	岡野敬子	岡地紅華	岡田麗峰	岡田瑞雪	岡田津苑	岡田惠香	岡田惠鶴	小笠原青華														
可児長望	金澤秀篤	角野松鶴	加藤蘭芳	加藤碧涛	加藤博子	加藤夕堤	加藤翠影	加藤松香	加藤松雲	加藤秀慧	加藤定子	加藤花畦	加藤永樵	桂山漓江	勝海芝香	加地孤握	片山清洲	片山紫雲	片山秀園	梶山盛濤	加島遊舟	梶田月湖	笠原喜美江	籠瀬提花	加古仔春	加古松泉	柿本香苑	貝沼春雨	界外玉桜	小野田景月	尾之内柳雪	小野蹊泉	落合玉泉	尾関楊花	
北村光苑	北川爽風	北岡青滲	岸本静子	川本大幽	川本赫汀	河原彩雲	川名思孝	河津紫雪	河内飛園	河田聖翠	川瀬美津子	川角蘭香	川島佳水	川口由美	河合瑤舟	河合翠山	河合醉光	河合翠月	河合翠星	川合玄鳳	川合桂舟	川合漁舟	荻谷仲風	荻田富美	龜山雪峰	龜山小琴	神谷綠泉	神谷素景	神谷静苑	神谷松扇	神谷采邑	神谷光園	神谷積山	鎌倉彩風	金丸翠石
香村孤竹	河村黄園	幸村溪雪	額額阜葉	小池玲翠	黒柳葉舟	黒田竹翠	黒田寿水	黒田鵬霄	久留宮千扇	久留島陸子	厨柳青	栗本珠路	栗木高節	倉橋松容	倉橋高堂	倉橋華仙	倉田朝華	倉田瀟碧	倉田珪延	倉田秀佳	倉内英華	工藤茜邑	工藤子鷗	草野慧泉	日下部みゆき	清田芳園	清田蓬香	久徳明峰	木村潮香	木村霞月	木全春琴	木全紫香	衣川彰人	鬼頭城山	
近藤延子	近藤晴翠	近藤翠華	小南継華	小林祥鶴	小林紅琳	小林惠風	小林玉芙	後藤幽泉	後藤蘇月	後藤文明	後藤松烟	後藤春洋	後藤光飛	後藤香波	後藤啓太	後藤珠恵	小寺彩恵	小寺須美子	小塚珠香	小玉太貫	小谷春苑	小高恵翠	小島泰子	小島初美	小島白汀	小島泰碩	小島千翠	小島雪舟	小島静華	小島瑞柳	小島真海	岐香	近藤由果	近藤芳玉	近藤梅鶯
柴間秀瑤	柴田惠水	柴田華逕	柴田厚実	柴口鶴泉	篠田祥濤	澤野麦邨	澤田明琴	沢田鴻風	佐山美楓	佐藤翠峰	佐藤桑碩	佐藤水香	佐藤公華	佐藤寛山	佐藤華泉	佐々木見枝子	佐々木宏潤	酒向虹風	桜場龍峰	桜井柳絮	佐久美泉涯	坂本美薔	酒瀬川香風	榊原珠月	酒井麗月	坂井曾鶴	酒井光華	酒井琴泉	酒井千秋	齋藤芝香	近藤由紀枝	近藤由果	近藤芳玉	近藤梅鶯	
鈴木花園	鈴木雲峰	鈴木功子	鈴木愛	菅生攝堂	杉山瓊川	杉本京扇	杉田節子	杉田節子	杉田育子	杉浦遙岑	杉浦新水	杉浦昇旭	杉浦琇鈴	菅沼貴香	新海峰永	白木紫香	白井美喜子	白井景星	角谷玉雲	鈴木立齋	鈴木蘭峰	鈴木容華	鈴木美都子	鈴木真理子	鈴木千恵	鈴木青楓	鈴木静香	鈴木静苑	鈴木松厓	鈴木史鳳	鈴木紅瑤	鈴木香鶴	鈴木京楓	鈴木華瑤	
高橋竹香	高橋栖雲	高橋華堂	高橋圭子	高根桂祥	高田牧香	高田香坡	高田鳴琴	高崎嚴風	高桑清雲	高木紫光	高木光風	高木紅舟	高木玄齊	高木東里	世古口大虚	関戸海越	角谷玉雲	鈴木立齋	鈴木蘭峰	鈴木容華	鈴木美都子	鈴木真理子	鈴木千恵	鈴木青楓	鈴木静香	鈴木静苑	鈴木松厓	鈴木史鳳	鈴木紅瑤	鈴木香鶴	鈴木京楓	鈴木華瑤			
谷口琇苑	谷川青楓	谷泉石	谷鴻風	棚橋一葉	田中緑風	田中照葉	田中尚秀	田中祥雲	田中紫雲	田中幸江	田中光穂	田中幸香	田中玉穂	田中曉雨	立松鶴風	楯青萌	田代春苑	田島不染	武山昂石	武山朝路	武野桂華	武内晶庭	武内幽汀	竹内梅泉	竹内清泉	竹内春翠	竹内紫燕	竹内栄心	武井岳峰	田村勢望	滝白雅	高橋秀翠	高橋八重子	高橋白羊	
内藤幸代	鳥居柳城	鳥居竹泉	外山悠汀	富田蘭月	富田華妍	戸松紅翠	戸松香苑	朽久保律子	戸田青楓	戸崎翠虹	鶺鴒澄江	堂前蒼雲	寺本陽春	寺嶋三和	寺尾桑林	手島伸子	坪井白汀	坪井濤華	角田和泉	都筑聖園	土屋春聲	土屋小苑	津田松鶴	辻秀麗	築山みなみ	塚本桃里	中条彰山	千葉晨翠	多和田墨濤	田村泉舟	玉樹榮香	玉置尚華	種田瑞鳳	谷口大観	

丹羽 香風	仁田脇京華	西村 松花	西川原翠苑	西 惠香	新山 翠香	新美 珠光	新美 秋鳳	長屋 天虹	中村 峰泉	中村 竹童	中村 曾南	中村 千秋	中村 清園	中村 翠雲	仲村 春水	中村 和則	永平巳旺子	中林 俊香	中林 景	中野世津香	中根 海童	中西 笙月	永谷 恵子	中田 和香	永瀬 珠香	永瀬 紅蘭	中島祐三子	中島 祥園	中島 永溪	永坂 抱月	長坂多津子	中川 麗香	中川 星光	中川 瑞玉	中川 貴舟	永井 恵子
幅上 蘭香	馬場 紀行	羽場 春蕙	羽根 寿子	花村 秀嶽	服部 柳翠	服部 蘇華	服部 青洞	服部 春逕	服部 華泉	波多野香葉	羽田野江楓	秦 雪暎	長谷川鸞卿	長谷川滴水	長谷川眞山	長谷川春香	長谷川恵玉	長谷川華香	橋本 成良	羽柴 苔谷	萩原 祐子	萩野 琴苑	則武 穹	野村 清涼	野々垣清城	野中 曾川	野田 虹園	野倉 梅芳	野口 志園	野口紀代子	庭田 紫光	丹羽 裕	丹羽 峰仙	丹羽 茜麗	丹羽 常見	丹羽 春蘭
平岡 妙紅	平岩 美風	比良 公美	日比野妃扇	日比野翠春	久田 宏道	東山 春扇	日江井芝香	坂野 竹童	坂野 渚月	坂野 小波	阪野 九塔	原田 南鳳	原田 清尚	原田 圭竹	原賀 瑞芳	原 霞扇	早野 江郷	早瀬 滉	林田 虎峰	林 玲玉	林 留春	林 美枝子	林 柏堂	林 十糸	林 天翔	林 大鳳	林 大樹	林 如華	林 春翠	林 紫州	林 華泉	林 沙舟	早川 和子	早川 紫雲	濱田 紫雲	
本間 翠眉	本田 秀岳	堀部 恵苑	堀場 秀峰	堀場 錦城	堀内 松琴	徳積 爽風	堀田 恵香	星野 蘭雪	古田 春華	古田 秀紅	古川 侃司	古川 花溪	夫馬 春園	藤村 眞徳	藤田 寒樹	藤澤 映秀	福西 史呂	福谷 旭濤	福田 徑揚	福島 有何	福島 徹山	福岡 林泉	深谷 恵庭	深見 蒼海	深津 洋子	深田 芳香	広田 陽水	廣澤 凌舟	広井 秀琳	平松 心華	平野 芳碩	平野 萌華	平野 美扇	平野 公慎	平野 公鶴	平賀 秀園
水谷 敏子	水谷 天風	三代 雄峯	三島 濟美	見神 恵峰	三浦 景波	丸山 聖峰	真野 翠芳	松元 紫翠	松元 彩華	松本 紅雨	松原 紫園	松野 良園	松田 樹幹	松田 雅風	松田 華月	松田 鶴鵬	松下 武義	松下 聖心	松下 嬉春	松下 華邨	松下 鶴苑	松澤 昂永	松崎 青連	松崎 朱實	松浦 瑞月	松浦 華苑	松浦 秀麗	待田 康苑	間瀬 白泉	増田 蘭苑	増田 春暉	増田 山翠	牧 仙岳	前田千登世	前島 春汀	
森 雪華	森 清葉	森 紅雀	森 絹泉	森 京華	桃井 祥谷	物部 浩子	元村 征子	元橋 逸舟	元祐 秀蘭	望月 春燕	望月 紫峯	毛利 恵風	毛利 曉草	馬山 玉蘭	村上 紫雲	村田 籬香	村田 光柊	村野 竹風	村上 史麗	向山 青泉	三輪 凌慶	三輪 晴風	三輪 三麗	宮田 洋美	宮田 清風	宮崎 富山	三宅 紀璋	美濃羽城開	皆川 嗣恵	三橋 紅月	溝口 大仙	溝口 純華	溝口 子静	水野 朋香	水野 泉美	
山田 白陽	山田 踢雲	山田 千鶴	山田 素光	山田 清香	山田 梢心	山田 杏華	山田 晞予	山崎 海石	山口 富泉	山口 律舟	山口 幸子	山口 優翠	山口 裕子	山岸 邦山	山川 孝子	山川 昌泉	山川 杉徑	山内 窓楓	矢野 翠芳	箭野 翠風	梁川 景雲	矢田 紀香	安田 雪篁	安田 翠嵐	保田 翠溪	安田 一絵	矢島 潮香	八木 彩花	森本 夏溪	森下 久美	森口 晶月	森 隆城	森 實年子	森 政子	森 冬華	

〔西三河支部〕

平成二十七年十二月二十四日(木)
中日新聞社岡崎
支局へ支部長の
山口律舟氏と支
部次長三名が伺
い、社会事業団
に十万円を寄託



若林 春麗	米田 匡陽	吉村 峰燕	吉村 美雪	吉村 和子	吉原 純芳	吉田 美影	吉田 桃花	吉田 清城	吉田 紅房	吉田 江楓	吉田 一峰	吉澤 劉石	吉川 清軒	吉井 子雪	横井 静嘉	山脇 三枝	山本 英男	山本 史鳳	山本 香川	山中 桂山	山田 流芳	若山 峰溪	縣 欣司	天野 稔子	天野 玲風	荒川 玲華	荒川 華虹	荒川 清香	荒川 安子	安藤 汀鶴	安藤 静歩	新井 桃園	天野 玲風	天野 稔子	天野 璃華				
赤梅 東風	青山 碧雲	青山 佳白	青山 涼虹	青木 碩山	青木 芝翠	青木 定仔	青木 榮俊	相原 翠月	会田 慶子	愛澤 珠翠	渡辺悠記子	渡辺 北嶺	渡辺 月潭	朝岡 子皓	朝井美佐子	浅井 花枝	浅井 清泉	朝井 昭葉	浅井 晨光	秋松 秀玲	天野 秀玲	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩		
天野 廣衍	阿部 牧香	阿部 光泉	阿部 喜秋	安達 大門	足立 彩華	安達 啓子	東 智子	浅野 揺草	浅野 清澄	浅野 春陽	浅野 彩苑	浅沼 月琴	浅川 都鸞	朝岡 子皓	朝井美佐子	浅井 花枝	浅井 清泉	朝井 昭葉	浅井 晨光	秋松 秀玲	天野 秀玲	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩	荒川 静歩

〔東三河支部〕

年末助け合い
10万円を寄託
中部日本書道会支部
中部日本書道会東三
河支部は十六日、中日
新聞社会事業団の「年
末助け合い運動」に
と、会員から集めた十
万円を寄託した。
古川昇史支部長と次
長の林田虎峰さん、大
河戸柳光さん、村井康
山さんの四人が中日新
聞豊橋総局を訪れ、石
川保典総局長に手渡し



「年末助け合い運動」
に寄託する募金を手渡
す古川昇史支部長(左
から二目)ら(豊橋
市八町通)

石原	石橋	石塚	石田	石田	石田	石崎	石黒	石黒	石榑	石倉	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石泉	石井	石井	伊澤	池田	井桁	池田	池田	井尾	井内	飯田	飯田	飯田	安藤	安藤	
雲木	悠川	弘子	珠山	茜華	恵巳	翠溪	直子	煌花	玉瑤	桜舟	麗香	明加	裕彩	凌雲	凌雲	仙城	真瞳	茂義	西城	敬子	景雲	華泉	松風	豊泉	照葉	美紀子	青壘	翠咲	秀翠	絹子	琴流	溪舟	峰千	泰郷	幸恵	白翠	
井戸	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	磯部	五十川	磯貝	泉	石本	
本瑞心	蘭徑	由美	弥生	美代子	美泉	桃苑	汀華	たつゑ	妙子	草華	井翠	青慶	昌郷	韶光	春翠	紫鳳	紫鳳	茂	江麗	江麗	鴻仁	紅彩	光華	桂川	恵扇	谿石	恵子	玉冰	梓紗	知豊	純慧	香雪	碧雲	好子	麗水		
岩本	岩村	岩垂	岩田	岩田	岩田	岩瀬	岩瀬	岩瀬	岩崎	岩崎	岩越	岩城	伊与	今村	今村	今西	今西	今枝	今井	今井	今井	今井	今井	今井	伊吹	井上	井上	井野	井野	井野	大塚	稲吉	稲垣	稲垣	稲垣		
湛山	蹊月	季粧	寿泉	香翠	永慎	房子	祥苑	清風	翠風	勝子	勝子	伊与	伊与	今村	今村	今西	今西	今枝	今井	今井	今井	今井	今井	伊吹	井上	井上	井野	井野	井野	八重	小夜子	舞夏	舞夏	紅春	輝彩		
大久保	大久保	大岡	大池	塩谷	榎本	江崎	江崎	江崎	江坂	江口	江川	江川	梅村	采女	内山	内山	内田	内田	内田	内田	内田	内川	白井	白井	宇佐	宇佐	鶴飼	鶴飼	鶴飼	魚住	上山	上松	上田	上田	上田	位田	
真麗	春鼎	祥園	香嶺	華舟	翠峰	露舟	秋泉	虹風	星千	翠苑	幸甫	香苑	紅楓	紫泉	勢潭	晃州	阜月	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	和舟	
岡田	岡田	岡田	岡島	岡崎	岡崎	岡	大藪	大矢	大矢	大森	大村	大平	大平	大原	大畑	大野	大野	大野	大野	大野	大西	大辻	大塚	大塚	大谷	大谷	大谷	大田	大田	大田	大嶋	大鹿	大澤	大崎	大河	大河	
志保	昭尚	愛子	淡雪	志虹	啓雪	幸秀	翠園	大月	翠華	みゆき	彩豊	豊秀	景雲	律苑	南風	玲子	彩	馨泉	秋蕙	裕子	菖苑	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	素子	
鏡	加賀	貝崎	小野	小野	尾中	尾関	小澤	長田	尾崎	尾崎	尾崎	奥谷	奥村	奥野	奥田	奥田	奥田	奥田	荻原	荻野	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	小川	
千裕	ちづ子	禎園	美晴	紀子	杉得	明美	翠嵐	裕華	美恵子	節香	翠香	虹雨	順子	鶴扇	光子	蘇水	薰苑	壽蕙	恵月	恵月	杏華	生子	滋紅	節苑	恵里	賀子	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	
加納	金子	兼子	金丸	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	加藤	桂川	勝山	勝山	香月	香月	片桐	片岡	春日	春日	春日	梶川	梶浦	掛布	柿本	垣東	鏡	
杏華	秀越	桂苑	紫山	満寿江	昌子	浩子	照代	苔苑	千冬	碩望	昭蘭	祥華	春溪	紫雲	江子	こづみ	桂子	恵月	恵月	杏華	生子	滋紅	節苑	恵里	賀子	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	桂苑	
川村	川村	川松	河原	川出	川澄	河島	川崎	川崎	川口	川口	川口	川北	河合	河合	亀井	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	神谷	
春霞	鶴堂	把泉	坡青	泉麗	良子	紫虹	清吟	琴虹	美舟	紫泉	花園	博子	澄香	秀苑	陽	芳翠	秀花	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	奈子	
木村	鬼頭	鬼頭	木戸	北村	北野	北野	北川	北川	北川	木島	岸田	岸田	木澤	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	神田	
輝扇	豊寧	冬扇	長山	玉鳳	春艸	敦子	玲香	秀麗	佳香	静月	昌子	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	春谷	
倉科	倉内	倉	久米	熊田	熊澤	熊崎	熊谷	久保	久野	國廣	国枝	工藤	工藤	久世	日下	岫	桐山	清沢	木本	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	木村	
清怜	翠羽	玉耀	水聲	梅久	青流	昭子	弦謠	田俊子	天山	寿仙	晃治	玉州	佳瑛	佳瑛	佳瑛	悦子	正美	華舟	竹壽	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	和象	
小澤	小駒	小浦	神山	河野	甲谷	甲谷	小宇	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	小出	
松煙	辰江	祥雪	彩華	京子	富美子	千樹	佐久美	綾菫	誠子	晴生	理一	紫香	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	知里	
小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林	小林
稚泉	進	翠月	敬子	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	小早	

〔濃飛支部〕

【中津川通信局】▽公益社団法人中部日本書道会濃飛支部 5万円

〔秋原通信局〕▽中津川市苗木、中部日本書道会濃飛支部 5万円

会員の善意を石原馨風支部長に写真が届けた。

真と森京華次長に同が届けた。

中日新聞 2015.12.25(金)

〔北勢支部〕

平成二十七年十二月十六日(水)

中日新聞社四日市支局へ支部長の井口方燕氏と支部次長の伊藤艸亭氏が伺い、社会福祉法人中日新聞社会事業団に十万円を寄託

倉光 枝芳 小島 華扇 小島 玉寶 小島 幸波 小島 瑞香 小島 廣子 小島 大立 小島 翠風 児玉 翠風 小塚 松香 小塚 祥貞 小塚 璃幸 古塚 璃幸 小寺 恵蘭 後藤 秀翠 後藤 智明 後藤 柳月 小西美紀子 小早川恵祥 小林 敬子 小林 翠月 小林 進

福谷	福田	福井	富貴原	深谷	深谷	深井	深井	廣瀬	廣澤	平光	平松	平原	平野	平田	平川	平岩	平井	日比野	日比野	日高	久田	久田	彦坂	彦坂	日景	坂野	半田	判治	伴	原田	原田	原田	原	原	林	
紅華	ヒデ	芳子	笙輝	紅蘭	華恵	悠水	尚子	玉樹	光雪	朱扇	圭鳳	皓月	和秀	瞳	彩舟	霞葉	三千代	野貞寿	汀華	真弓	千祥	光玉	末子	翠花	洋子	幸子	博子	晋水	峰葉	葵泉	賀代	翠舟	香風	和苑		
堀川	堀内	堀	堀	洞	穂積	堀田	堀田	堀田	細田	細江	星野	星野	古山	古橋	古橋	古橋	古田	古瀬	古澤	船橋	武内	二村	藤原	藤原	藤原	藤野	藤戸	藤木	藤江	藤井	藤井	福山	福原			
洋子	無我	美洲	梅肇	春陽	英翠	清華	花	智洋	廣泉	爽月	朋杏	律花	仙燁	玉扇	勝櫻	里子	紀風	清流	暁子	清艸	幽泉	聖富	龍峰	清泉	秀代	絢春	二朗	映春	子葉	紫苑	和彦	恵山	秋冷			
松本	松原	松原	松原	松野	松永	松永	松田	松田	松田	松田	松川	松岡	松岡	松岡	松岡	松岡	松尾	松浦	松浦	松居	松居	松井	町田	正木	牧野	牧野	牧野	牧野	前畑	前越	舞島	本多	本田	堀脇	堀田	
紅華	流恵	好子	條新	秋花	堯雨	典子	穂輝	秋芳	清美	信泉	春霞	蘭毫	瓊玉	輝峰	永律	滔石	昇水	華雪	光子	玉華	清芳	清芳	房子	常典	瑞波	瑞風	清苑	秀鳳	妙川	蘭香	吉華	明代	孝子			
宮	蓑輪	箕浦	峯村	見並	南谷	光澤	溝口	溝口	溝口	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水野	水谷	水谷	水谷	水谷	水田	水田	三島	三沢	三倉	美希	三浦	真野	的屋	松本	松本	松本				
希蓉	青岳	年樹	榮子	春翠	巨輝	閑石	渺然	大河	春華	和香	美千	文香	董山	昌花	菜月	紅翠	鳳月	潭翠	廣風	玉汀	君代	勝代	美泉	珪華	蘭汀	桃紅	春汀	昌風	巖芳	桃華	玲子	泰	彩雲			
森	森	森	森	森	望月	村山	村林	村知	村田	村田	村田	村田	村田	村田	村田	村田	村田	虫賀	武庫	三輪	三輪	三好	三好	三好	宮本	宮部	宮部	宮地	宮田	宮崎	宮崎	宮崎	三宅	宮口		
よし子	芳彩	富華	尚香	光苑	環翠	希彩	菖苑	龍鳳	麗水	華泉	華雪	上氏	松園	紫苑	江園	香園	霞香	貴久子	清苑	斐水	彩光	劉生	初生	寿草	玲華	玲華	翠峰	秋鶴	芳川	帆舟	弘園	美知子	弘子			
山崎	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山川	山川	山内	山内	山内	山内	山内	矢吹	箭野	柳瀬	矢田	安田	保田	安田	安田	安井	安井	柳生	八木	八木	八木	矢上	諸富	森山	守永	森川	森岡
紅影	典子	如泉	竹汀	鈴代	香峰	紅鶴	光華	蕙世	雅芳	晶子	光苑	桂花	麗花	翔鶴	香霖	喜泉	貴美	緑風	里美	昌石	春麗	彩霞	翠谷	翠恵	江樹	治代	清峭	溪花	扇麗	瑞青	溪花	藍麗	松恵	英子		

会費未納の方にお願

年度末も間近となってまいりました。
 平成27年度会費未納の方は、至急お納め下さい。
 (正会員で中日書道展不出品の方及び準会員の方で未納の方)
 本部会員は、郵便振替 00890-6-14420。
 支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等

変更事項は本部までご一報下さい。

052(583)1900

山本	山中	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田	山田
小谿	みね子	陽水	美奈子	正代	美園	青舫	祥恵	祥堂	光芳	紅照	啓翠	桂苑	玉蓉	和子	鶴玲	静竹	春枝	陽水	翠子	鏡華	桃香	理樹	憲吾	杏歌	昌峰	舟紅	瞬光	春月	陽子	瑶華	乃理	正良	双剣	双剣			
吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	吉田	
千津枝	聖汀	翠竹	香雪	和田	和田	脇田	若杉	米津	肆矢	吉村	芳村	吉村	吉成	香映	緑葉	蘭生	八千代	妃碩	水香	祥令	香蘭	千艸	皓月	玉波	美華	惇恵	清苑	真由美	清苑	香映	香映	香映	香映	香映	香映		

訃報

心より哀悼の意を表し
 ご報告申し上げます。
 (厚生部)

○10月10日

評議員 河合醇光氏

ご尊父 眞司様 享年85才

○10月26日

評議員 菅沼柏葉氏

享年72才

○11月1日

正会員 洞 英翠氏

ご主人 啓二様 享年70才

○11月16日

正会員 奥住易洲氏

ご令室 洋子様 享年80才

○12月24日

正会員 田中美知子氏

享年76才



あとがき

・会報一七九号をお届けします。
 ・伊藤昌石新体制のもと新たな一年の始まりです。会員の皆様の更なるご支援、ご協力をお願いいたします。
 ・会報は年四回の限られた中で終了行事のすばやい報告と、予告行事の連絡を確実にとの思いで編集しています。是非ご一読の上ご活用下さい。

(編集部)

ホームページアドレス

http://www.cn-sho.or.jp

メールアドレス

info@cn-sho.or.jp